

施策評価シート(平成27年度評価実施)	担当部課名	産業環境部 農林水産課	関連部課名	
基本目標	賑わいと元気あふれるまちづくり【産業】			
施策名	農林業			
安全・安心な食生活に資する農業の振興を図るために、付加価値の高い品種の栽培、地産地消の促進、新たな担い手の育成、ほ場整備や農地の集積などによる効率的な営農環境の整備などを進めるとともに、林業については、森林資源の保全、鳥獣被害の対策などの取組を推進します。				
施策が目指す蒲郡市の将来の姿				
<ul style="list-style-type: none"> <li>●安心できる農作物を供給し、魅力ある農業が行われています。</li> <li>●農地を「所有」から「利用」へ転換することを促進し、農業が身近になっています。</li> </ul>				

#### ◆具体化した施策の取り組み実績

##### 1 親しみやすく魅力ある農業の実現

項目	平成25年度実績	平成26年度実績	平成27年度計画
第六次産業支援補助金	0件 0円	0件 0円	-
市民農園設置数、区画数及び利用率	3園 34区画 91%	3園 33区画 79%	3園 33区画 94%
子ども農業教室開催(参加者数)	13校 小学3年生679人	13校 小学3年生737人	13校 小学3年生743人

##### 2 遊休農地・耕作放棄地の解消と担い手の育成

項目	平成25年度実績	平成26年度実績	平成27年度計画
農地の利用権設定状況	12.7ha	10.8ha	12.0ha
新規就農者奨励金(対象者・支給額)	4人 450千円	3人 350千円	4人 500千円

##### 3 効率的な営農を支える基盤整備

項目	平成25年度実績	平成26年度実績	平成27年度計画
ほ場整備事業進捗率(大塚千尾地区)	61.9%	79.4%	100.0%
農業環境整備率(施工実施箇所数／地元要望箇所数×100)	100%	100%	100%
食用ギク栽培LED利用実証試験	-	-	-
天敵防除実証試験	200千円	200千円	200千円

##### 4 森林等自然資源の保全

項目	平成25年度実績	平成26年度実績	平成27年度計画
林道環境整備率(環境整備実施面積／環境整備対策面積(72,000㎡)×100)	44.4%	44.4%	44.4%
有害鳥獣駆除数	イノシシ199頭 アライグマ10頭 ハクビシン22頭	イノシシ215頭 アライグマ2頭 ハクビシン42頭 シカ1頭	イノシシ200頭 アライグマ10頭 ハクビシン50頭 シカ5頭

◆評価指標

指標名	区分	平成25年度	平成26年度	平成27年度	将来目標
耕作放棄地面積比率	目標値			2.6%	
	実績値	2.8%	2.7%		平成32年度
担い手への農地の利用集積率	目標値	10.0%	10.0%	13.6%	
	実績値	13.3%	13.0%		平成32年度

◆指標の説明・考え方

指標名	説明・考え方
耕作放棄地面積比率	当年度耕作放棄地面積／管内耕地面積×100
担い手への農地の利用集積率	当年度までの集積面積／管内耕地面積×100

◆指標の分析

管内の耕地面積は農地転用や非農地化により毎年減少している。耕作放棄地面積比率は、農業委員会のパトロール活動や指導により0.1ポイントの改善が見られた。認定農業者等の担い手経営体数が減少したことを受け、担い手への農地の利用集積率が0.3ポイント減少となった。

◆今後の方針

施策の課題	<p>本市の農業は、みかん、いちご、つまもの等の施設園芸が主体の農業であり、特に、ハウスみかんは、全国トップクラスの品質と生産量だが、原油価格の高騰等により、生産量においては平成19年度が約3,456tであったものが、平成26年度には、1,826tと47%も低下している。</p> <p>合意まで大詰めを迎えているTPP、燃油価格に強く影響を与える為替など、国内外をとりまく課題も山積みであり、行政として、農業者を支える施策を適正に実施していく必要がある。</p> <p>個別の問題としては、イノシシ等の有害鳥獣による被害が増大しているため、ワイヤーメッシュ柵設置など、積極的、効果的な有害鳥獣対策を実施しなければならない。</p>
-------	--

今後の施策展開	<p>JA蒲郡市では、将来の蒲郡の農業や農地のあり方、担い手対策、個別農家の総合的な支援方法をまとめた「地域営農ビジョン」を今年度策定した。「地域営農ビジョン」は、後継者支援・農家経営の健全化支援・農作業請負組織の支援などの人ビジョンと農地集積・作目別農地集団化・小規模基盤整備などの農地ビジョンを内容とするとのこと。JA蒲郡市の「地域営農ビジョン」を市が平成25年2月に策定した「人・農地プラン」を具現化するものと位置づけ、今後もあらゆる場面でJA蒲郡市と連携し、農地の流動化(売買・貸借)、新規就農支援等の施策を展開していきたい。</p>
---------	---

課長評価	構成事業の進捗状況	B: おおむね計画どおり進行している。
	施策の進め方	B: 一部見直しが必要である。
	コメント	農林業関係での重要な施策は、第1に有害鳥獣対策、第2に、農地の集積集約化、遊休農地解消、新規就農者確保、第3に、ほ場整備事業と考えている。これら、事業を効果的、効率的に推進するため、各施策事業について、それぞれPDCAサイクルの機能性をさらに高め、分野別計画の一体的な推進を図っていきたい。

部長評価	施策の進捗状況	B: 目指す将来像実現に向けておおむね計画どおり進行している。
	コメント	農業委員会法改正、農協法の改正、農地法の一部改正法等が施行されることになり、農地の集約集積化・遊休農地解消に向け制度的には整備がなされた。個々の農家の意見を吸い上げるには、農家と密接に関係しているJA蒲郡市との連携は欠かせない。JA蒲郡市の「地域営農ビジョン」と行政の「人・農地プラン」を両輪として農業振興を図っていくことが必要である。